

染香

ぜんこう

令和2年12月
第90号
(毎月1日発行)

オンライン
餃子の匂いは
オフライン

花に水やり！

我が家の末娘が今月三歳を迎えます。皆様にかわいがられて、元気に成長し、改めて感謝申し上げます。

その娘ですが、姉弟比べても群を抜いて、じゅんならんです。

先日、報恩講の準備で一日中本堂に居りました時、外でおとなしく遊んでいると思ったら、草抜きをしていたようですが、後で発覚したことは、「ご門徒さんが植えてくださった花の苗もキレイさっぱり…。当分目が離せません。」

その数日後のことです。「おとうちゃん、お花におみずやるよー」と、外から声が聞こえてまいりました。

今度は見張っていようと思いましたが、しばらく柱の陰から監視しておりました。

すると娘はじょうろを引きずって花に水をかけています。じょうろね。しかし、よく見ると、「花」に水をあげているではありませんか。

豪雨級の水を浴びて、花びらは下を向きました。「たえちゃん！土のほうよ、土！」

その時は娘の愚行を笑いましたが、後日そのことをフト思い出し、考えさせられたことです。

例えば、私たちの人生にとって「花」は「繁栄」です。勉強や仕事がうまくいく、病気が治る、人間関係が良くなる、といった繁栄です。その繁栄を「根」が支えています。しかし根は土の中にあるので、見えません。

どうでしょうか。花を咲かすことばかりに終始して、根を忘れてはいませんか。先人は、「おかげ様」と言っていて、見えない世界に頭を下げました。

もちろん、根がしっかりとあれば、花が開こうが閉じようが関係なし、などとは思いません。植えた花なら、咲いてくれるのを期待するのが、この私です。

「浄土真宗ではお願い事をせんもんじゃ」と聞いたことがあるかも知れません。これは花びらに水をやって満足することへの戒め、ということかも知れません。

(住職)

（お参り雑記）

ご主人を亡くされた家にお参りした時のことです。奥様が「買いた物がつらい」とおっしゃいました。

ご主人が生前好んで食べていたもので思い出し、また夫婦連れで買物をしている他のお客さんを見て思い出すといいます。

この話を、同じ境遇の別の家で話したところ、それからお参りの度に

「あの人はお元気にしていますか」とお尋ねくださるのです。

誰にも共有できない自分だけの思いがいつの間にか殻を作ります。その殻が少し破れて、なんだかさわやかな風が吹きとおるような勇気を感じました。素敵です。

ちょっと頭のこりほぐし

引・出
後-□-場

□に入る漢字一字はなんでしょう



おしらせ

除夜会（じよやえ）

十二月三十一日（木）十一時

仏説阿弥陀經（二十分）

除夜の鐘

十二月三十一日（木）十一時四十五分

正信念仏偈和讃（二十分）

本堂へのお参りもできますが、戸を開放し、お接待は控えますので、よろしくお願ひいたします。

元日会（がたんえ）

一月一日（金）朝七時

正信念仏偈和讃（二十分）

ホームページ制作中です

様々な情報を皆さまにお届けして、福泉寺の窓口を広げてまいります。年明け予定。

納骨墓受付中

新しいスタイルのお墓。来春施工予定です。先着順です。詳細はお寺まで。



ベルギーの浄土真宗

三十年前の記事です。

京都女子大学助教授 徳永道雄

今、ヨーロッパに浄土真宗のみ教えが伝わり、その中から青い目のお坊さんが育ちつつあります。そのお坊さん達が得度(僧侶の資格を取得)なさる時、本願寺の国際センターに、お手伝いに行くんです。

今から五年程前、外国人の得度式がありました時、ベルギーからきたベルルという人がいました。非常に熱心な人で、何のご縁か知りませんが親鸞聖人の「歎異抄(たんにしやう)」のドイツ語訳を手にとりまして、自分はこのみ教えに生きようと決心したんです。今ではアントワープという町で、自分の家をお寺にして、ベルギー国内に十七の集会所をもっていて、車で走りまわっている人です。

元竜谷大学教授の山崎昭見先生からうかがった話ですが、その中の一つの集会所におまわりさんがいるんです。ベルルさんの話をよく聞きにきていらっしゃるんです。そのおまわりさん、いつでも念珠を腕輪のようにしてかけているんです。仕事に行く時も念珠をかけていくんです。

山崎先生がそのおまわりさんに会われたとき、一緒に行った日本人は、それは良いことだと言ったそうです。ある人が商売をしているときも念珠をかけて商売したら大繁盛したというようなことを言ったら、そのおまわりさんは怒りました。「私はそんな打算のために念珠をかけているんじゃないんだ。なんで私が念珠をしているかというところは警官だから人のアラばかり探すぐせがある。ところが親鸞聖の教えを聞いていたら、お前は果して人をとがめることのできるような人間か」ということを思い知らされた。

た。だからそのことを忘れないように、いつも念珠を腕にかけているんだ」と言ったということなんです。



(アントワープの大聖堂前)

私はこの話を聞いたとき、このおまわりさんは非常に深く教えを味わっているなとすごく感動しました。そしてみ教えを実践している人です。この人が町を歩きますと、皆が寄ってくる。おまわりさんを少しも恐れていない。町の人の人気者みたいなおまわりさんだということなんです。お念仏の精神を實踐している人です。そこでベルルという人のお話ですけれども、五年前に得度された時、私が講義をしたんです。

実に驚くべき程、親鸞聖人の教えや仏教を深く勉強しているのので、講義が終わった後、ベルルさんとお話してみることになりました。「あなたは親鸞聖人の教えを深く味わっておられますけれど、一体どこにひかれただんですか」。そうしますと、ベルルさんはどう答えたかといいますが、たった一言、「それは、善悪をこえた救済です」。如来の本願に救われるのには善し悪しを問わない、ということなんです。「歎異抄」に

「善人のおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」といいう言葉がありますね。善人でさえ往生できず、救われる。だからましてや悪人は勿論救われるということですが、この論理は、西洋人にはとつてもシヨックなんです。

ここで、善悪、善し悪しという問題を考えてみましょう。(以下省略)

西原祐治「仏教を染しむ」より

※この後、ベルギーの浄土真宗は一九九七年にカルト宗教に指定され現在に至ります。